名前の由来は江戸時代から

盛岡の人々はここを杉土手とよび、
南から帰ってくると車窓からはるかにこの杉の叢林がのぞまれ、
ふるさとの近づいたことが分かったものである。

――石上玄一郎「京都情緒を失わぬ盛岡の底辺」（『旅』1969.4）より

江戸前期までは北上川の本流が現在の開運橋通から産業会館の辺りを流れており、南部藩ではたびたび洪水の被害に見舞われてきたことから、延宝元年（１６７３年）に北上川の流れを切り替える大規模工事に着手しました。

元和３年（１６８２年）には、中津川合流点から馬場町、大清水町にかけて杉を植えた堤防が築かれ、現在の当所の周辺を「杉土手」と言うようになりました。この堤防の完成によって南部藩を長年苦しめた水害問題が解決し、現在の盛岡に至るまでのまちづくりが進みました。

道路の両脇を取り囲む杉はヒマラヤシーダですが、実は「マツ科」になります。当所へお越しの際は、御厩橋から明治橋に至る見事な杉並木をご覧ください。